

平成21年度

東邦大学付属東邦中学校入学試験

前期試験問題

国語

(100点 45分)

注意

1. 「始め」の合図があるまで、この問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は15ページあります。試験中にページの不足などに気付いた場合は、手をあげて監督の先生に知らせなさい。
3. 監督者の「始め」の合図のあと、最初に受験番号と氏名を解答用紙のそれぞれの欄に記入しなさい。
4. 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
5. 問題用紙はどのページも切りはなしてはいけません。
6. 「やめ」の合図で鉛筆をおき、所持品はそのままにして、ただちに退室しなさい。
入室の合図があるまで、教室の外の廊下で待ちなさい。
7. 試験が終わったら、問題用紙は持ち帰りなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(各段落の最後に段落番号を加えています。)

昔の西欧の哲学者たちの多くは、自然界は血塗られた競争に満ちており、人間も、ほうっておけば、⁽¹⁾ だがいに相手を殺したりだましあつたりする状態におちいると考えていました。そこで、人間の道徳性が生来存在するものではないとなると、道徳は人間が^a 理性によつて考え出し、教育によつて人間におしつけるものであるということになります。そして、道徳の混乱をさけるためには、社会全体を統率する政府が必要であることになりました。しかし、この^イ 考への前半は、生物学的には^ロ 誤りであることが、いまではわかったと言つてよいでしょう。自然界には資源をめぐる競争が存在することは事実ですが、競争がつねに血塗られた闘争を導くわけではありません。^(第1段落)

人間はほ乳類の中の霊長目というグループに属しています。霊長目は、サルと類人猿の仲間ですが、このグループに属する動物たちのほとんどは、恒常的な^ハ 群れを作つて暮らしています。ほ乳類という動物は、全体的に見るとほとんどは^I 性なので、これはちよつと変わったことです。さらに、霊長類の群れは、単にいろいろな個体と同じ場所にいつしよにいるというだけではなく、群れの構成メンバーが比較的安定していて長くないしよに暮らし、メンバーどうしがいに個体識別しており、内部で複雑な社会関係が営まれています。各群れはなわばりを持ち、近隣の群れとさまざまな緊張関係にあります。このように、通年的に安定したメンバーでいつしよに暮らし、内部に構造を持つた群れを作る動物は、ほ乳類に限らなくても、あまり^ニ 多くはありません。しかし、霊長類というのは、だいたいにおいてそのような動物なのです。^(第2段落)

このように恒常的な群れで生活する動物は、単独でいるよりも、他の個体といつしよにいて、相互交渉を持つことの方を好みます。サルの群れを観察していると、もちろん、しばしば小競り合いも起こりますが、毎日の彼らの生活でもっとも顕著なのは、⁽²⁾ 各個体がだれかとならんですわつてたがいに毛づくろいをしあう姿でしよ

う。二頭のサルがいつしよにいるとき、もつともよくある状態は、たがいに疑心暗鬼で、いつ相手におそいかかろうかという態度ではありません。たがいに相手を^① キヨ容し、寛容な無関心でいることの方がふつうです。そして、そういう状態がしばらく続いたあと、もつともありそうな行動は、その二頭がたがいに毛づくろいを始めることです。サルの仲間もチンパンジーも、しばしばけんかや小競り合いをしますが、おたがいにけんかをしたあとには、なんらかの仲直りのための行動を見せます。そして、あいさつ行動をしたり、毛づくろいをしたり、社会関係の^② シュウ復にかなりの時間をかけます。これは、彼らにとつて、同じ社会の中でどこおりにないつしよに暮らしていくことが、非常に重要なことだからです。^(第3段落)

社会生活を基本とするならば、他者に対して、ある程度の信頼と親愛の情を基本に持つていなければなりません。社会生活をする霊長類はみなそうであり、私たちは、そのような動物を祖先に持つています。私たち人間が、社会生活を基本とし、⁽³⁾ 社会性のある動物であることは明らかです。そして、私たちも、基本的に他者をキヨ容し、信頼と親愛の感情を持ち、けんかのあとには関係のシュウ復をはかろうとしますが、この傾向は、霊長類の祖先から受け継いだものであると考えるもかまわないでしょう。^(第4段落)

では、他者理解の基盤にある^{※1} 「心の理論」はどうでしょうか? 「心の理論」は、他の霊長類にもあるのでしょうか? 私たちにもつとも近縁な霊長類であるチンパンジーは、他者の心を^③ 類スイし、他者が何を欲しているのかを理解して自分の行動を選択しているようです。また、チンパンジーは、鏡を見て自分自身だということとが理解できるので、鏡のあるなしにかかわらず、^{II} 「^{II}」というイメージを持つているようです。したがって、チンパンジーには、「心の理論」があるとつてもよいでしょう。もともと、「心の理論」という言葉も、チンパンジーの研究から生まれたものでした。^(第5段落)

それでは、チンパンジーは、他者に対して^{III} の感情を持つことはできるのででしょうか? 長らくチンパンジーの集団を観察してきたオランダの研究者であるフランス・ドウ・ヴァールは、できるとつています。

彼の観察していたチンパンジーたちは、苦痛を感じている他個体に対して、やさしく※2愛撫するような行動を見せることがよくあるそうです。私は、タンザニアの野生チンパンジーを研究していたことがありますが、母親が子どもをかわいがる様子には、**Ⅲ**と受け取れるものがありました。たとえば、赤ん坊をおなかに抱いて歩いていた母親が、何かの拍子に赤ん坊の頭を木にぶつけてしまい、赤ん坊が泣き声を上げたとき、母親は、赤ん坊の頭を何度もなめながら、自分自身もキーキーと泣いたのです。(第6段落)

私たちと近縁な霊長類に関するこれらの研究から、道徳性のもとにある「社会性」「他者理解」「**Ⅲ**」などは、人間になって初めて出現したのではなく、恒常的な群れ生活をして脳が発達した霊長類において、少しずつちかわれてきたものであることがわかります。これだけで道徳があるとはとても言えませんが、道徳性を生み出す基盤となる感情のいくつかは、私たちが霊長類の祖先から受け継いだものであると言つてよいと思います。(第7段落)

それでは、人間の持つ道徳性を生み出すために、他の霊長類には見られず、人間固有に持っている性質は何でしょう？ それは、より強力な「**Ⅱ**」の※3概念、自意識と、※4抽象化の能力だと思えます。道徳性には(4)自省の力が必要であり、自己抑制が必要ですが、そのためには、自己という認識がしつかりとしていなければなりません。他者に見られてはすかしくない自己像の形成というのも、まさに自己の認識がはつきりしていなくてはなりません。また、行為や※5規範を、一つ一つその場限りの断片的なものとしてではなく、一般化し、抽象化したレベルでとらえねばなりません。それによって規範が内在化され、社会と自分と他者との関係が認識されるでしょう。(第8段落)

(長谷川眞理子『生き物をめぐる4つの「なぜ」』より。出題にあたり、原文の形式を一部改め、また、原文を一部省略しました。)

(注) ※1 「心の理論」……筆者が「他人の心の状態をおしはかる脳の働き」について名づけた言葉。

※2 愛撫する……相手をなでたりさすったりしてかわいがる。

※3 概念……物事についてのおおまかな意味内容。

※4 抽象化……いくつかがら共通するものを取り出して一つの考えを作り上げること。

※5 規範……何かを判断したり行動したりするときの手本となること。

問1 線①と③と同じ漢字を使うものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | | |
|---|------|---|---------------|---|----------------|
| ① | キヨ容 | ア | テンキヨ先をたずねる。 | イ | 国外にタイキヨさせる。 |
| | | ウ | 発明品のトツキヨを得る。 | エ | 問題点をレツキヨする。 |
| ② | シユウ復 | ア | 定期券をシユウトクする。 | イ | 首相にシユウニンする。 |
| | | ウ | 早起きをシユウカンづける。 | エ | 博士課程をシユウリヨウする。 |
| ③ | 類スイ | ア | 計画をスイシンする。 | イ | 一定のスイジュンに保つ。 |
| | | ウ | 線がスイチヨクに交わる。 | エ | 役所のスイトウ係を務める。 |

問2 線イ～二の中で言葉の種類として異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問3 〱線a「理性」、b「断片的」は、どのような意味ですか。もつとも適切なものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 理性

- ア 一番良いと思われることをつねにさがし求める働き。
- イ すじみちを立てて物事の善悪を正しく判断する働き。
- ウ 科学力によって真実だと言えることを想定する働き。
- エ 感情に左右されないで信念にもとづいて考える働き。

b 断片的

- ア 個々別々でありながら統一がとれている様子。
- イ ばらばらに分かれていてバランスが悪い様子。
- ウ つながっていたり離れていたりしている様子。
- エ 全体としてのまとまりがなく切れ切れな様子。

問4 本文を大きく三つに分けるとすると、二つ目はどの段落からどの段落までになりますか。最初と最後の段落番号を算用数字で答えなさい。なお、一つの段落だけの場合は同じ数字を書きなさい。

問5 〱線(1)「たがいに相手を殺したりだましあつたりする状態」と同じことを述べている部分を本文中から三十字以内で見つけ、最初と最後の四字ずつをぬき出して答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

問6 〱I にあてはまる言葉を本文中から漢字二字でぬき出して答えなさい。

問7 〱線(2)「各個体がだれかとならんですわって毛づくろいをしあう」とありますが、サルがそのような行動をとる理由として、もつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 大人としてのマナーが身についていて、だれでもが同じように相手を気づかうことができるから。
- イ おたがいに仲良くしようとする努力することで、同じ群れの一員として生きていくことができるから。
- ウ 毛づくろいがサルにとつてのあいさつであり、それがないとけんかがたえなくなってしまうから。
- エ いつもおたがいに信頼の気持ちを示すようにしないと、群れから仲間はずれにされてしまうから。

問8 〱線(3)「社会性のある動物」の説明としてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の動物たちの群れを大切にしながら自分の社会で生きていける動物。
- イ 集団としてのルールを新しく作りながら仲良く生きていける動物。
- ウ 同じ社会に生きるものとしてちつじよを保って生きていける動物。
- エ 地球の生命をまもりつつ一つの社会を形作って生きていける動物。

問9 〱II・III にあてはまる言葉としてもつとも適切なものを次のア～キの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 同一
- イ 感動
- ウ 思いやり
- エ 美
- オ 自己
- カ 他者
- キ 共感

問10 ——線(4)「自省の力」の説明としてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の行動をふり返って過ちを正していく力。
- イ 自分の生活を改めて他人の長所を学びとる力。
- ウ 自分の成長を確かめて一歩ずつ前へと進む力。
- エ 自分の欠点を意識して直そうと努めていく力。

問11 本文の内容に合うものとしてもつとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人間の持つ道徳性は、社会生活をする霊長類の祖先からつちかわれてきたものである。そして、自分というものに対する強い認識力が加わることによって、道徳性は人間固有のものとして生み出されたのである。
- イ 霊長類は群れで生活する動物であり、サルから進化した人間も集団で生活を営むことを基本としている。そして、けんかや小競り合いを起こさないために、感情をおさえる方法として道徳を作り上げたのである。
- ウ チンパンジーの研究の成果から、人間にも共通する性質が多く見られることがわかってきた。そして、母親の子どもに対する愛情の深さは、霊長類の祖先から受け継いできたものであることが判明したのである。
- エ 人間に備わっているさまざまな感情は、霊長類固有の性格に由来していることが明らかになってきた。そして、人間の道徳性を高めるためには、脳の発達と同時に他者を認識する力の向上が必要となるのである。

二 次の文章は、和光妙子(わっこう)が中学校に入学してまもないころの様子をえがいたものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「君野小の人、あんまりいないね」

米村よむらさんが辺りを見回して言う。そうだね、と私は声をひそめて答える。なんだかこの熱気にやられて、早くも戦線離脱りだつだ。

窓の外をぼんやりと眺める。窓際の席でよかった。しかも一番うしろ。米村さんがせつせと話しかけてくる。あの子かわいいよ、とか、あの子ミニバスケで有名な子じゃない、とか。うんうん、へえ、そうなんだー、と言って相づちを打つが集中できない。(1)もはや家に帰りたかった。と言っても、今日は入学式だったので、父兄がなんと廊下ろうかで待っているのだった。教室の中に入れておいてくれるはずうしろのおばさんもある。

先生がやってきた。小さくて年配の菅野浜子という先生。音楽の先生らしい。若くて元気のよさそうな先生は残念ながらとりの二組らしい。菅野先生がいさつして、それで今日は終わりだった。

じゃあね、と米村さんが、廊下で待っているであろうお母さんのところへさっさと行ってしまったので、私も仕方なく廊下へ出る。

「なにぐずぐずしてるの。早く帰るわよ。お昼の支度したくしなきゃ」

そう言って、すたすたとお母さんが歩き出す。二番目の子となると、中学入学もどうでもいいらしい。私はといて、とぼとぼとしている。歩行も、気持ちも。

不安でいっぱい、心がどよんとしていた。だって、米村さんしかいないなんて。他の子たちは、もうすでにグループみたいになつてつるんでたつていうのに！

(2) はあーっ、と入学早々一日目からおおきなため息をついた。

中学校の感想はまず「きたない」だった。中学生という、微妙な年齢のヒトの身体からはがれ落ちるよこれが、そこかしこにこびりついていてる気がした。明るさのみじんもなかった。荒れずさんでいる、といった表現が適切だ。私は米村さんとほとんどいつも一緒にいた。席の並びが前後だったので、必然的にいつもいるようになり、他の子たちにしてもやっぱり同じ小学校同士でつるんでいた。ということ、つまりところ私は見事、中学校での初めての友達づくりに失敗してしまっただけだった。

となりの四組をのぞいてみれば、小学校のとき仲良かった子たちが、新しい友達とたのしそうに談笑している。反対の二組をのぞいてもしかりである。そういうのを目の当たりにすると気分がずんと落ち込んだ。

けど反面、面倒くさいとも思っていた。自分はこれこれこういう人間です、とクラスメイトにアピールするのはとても I ことだと、やってもいなくせに思っていた。小学生のときは、頭で考える間もなく先に身体が周囲に溶け込んでいたけど、もうそんな器用なことできやしない、とじめじめと思ったりした。

結局積極的な行動はしないで（というか、できないで）ただぼんやりと過ごした。トイレには米村さん行っ

たし、体育で着替えるときも米村さんと一緒だった。米村さんが休んだときは心の中で舌打ちをした。一人で過ごすのは得意だけど、まわりから一人だと思われるのは嫌だった。だから、米村さんが休みの日は、あーあ、と内心落胆しながら、近くの子に声をかけたりかけられたりして、つかの間の仲間に入れてもらった。みんな快く迎え入れてくれたけど、⁽³⁾ そんな自分自身に納得できない部分もあった。かんばしくない中学校生活の幕開けだった。

一年生でまずやることに部活動がある。部活は必須で、必ず入らなければならなかった。が、がんばった末に途中でやめてしまうのは、仕方ないことらしく容認されていた。

私はテニス部に入ろうと、前から決めていた。ちいさい頃に見たテレビマンガにあこがれていた部分もあったけど、私がこれだ！ と思ったのは、いつかの日曜日に中継でやっていた全日本女子の試合だった。コートをか

けまわるポニーテールのおねえさん。まっくろに日焼けしている足と真っ白でかわいいスコートがとってもいいかしていた。よし！ コートを端から端までかけまわって、自由自在に相手コートに球を打ち込むぞ。

日夜そんな想像をし、お母さんの姿見で、架空のラケットを振り回し、前傾姿勢で決めポーズをとっていた私。夢中になっていて背後の気配に気付かず、まんまとお母さんやお姉ちゃんに見られたことも何度があった。恥ずかしい思い出だ。

「わっこは、何部に入るの？」

米村さんに聞かれ、テニスと答えた。

「米村さんは？」

まだ決めてない、とのこと。テニスもいいなあ、とつぶやいている。ちなみに米村さんは、だれからも米村さんと呼ばれている。これといったニックネームはない。

入部手続きをするために、テニス部へ行こうと思ったが、テニス部がどこで練習しているのかわからない。いや、本当はわかっていたはずだ。テニスコートに決まっている。

そう、⁽⁴⁾ 余計なことは考えないで、テニスコートへさっさと行けばよかったのだ。

「お姉ちゃんに、テニス部どこか聞いてくる」

私はそう言った。お姉ちゃんが中学三年にいる、ということを知らしめたかったのかもしれない。ばかな行動である。米村さんは私に姉がいることなど百も承知なんだから、どうでもいいじゃないか。

「私も一緒に行く」

ということと私と米村さんは、うちの姉の部活、卓球部へと足を運んだ。

体育館のドアを開けて中に入ると、⁽⁵⁾ 空気が身体にまとわりついた。何十年も使ってるマットや跳び箱の、たまりにたまった手あかや汗のようなすすえた匂いがする。しかもカーテンが閉めてある。暗い。さすが卓

球部だ。

「お姉ちゃん」

お姉ちゃんはぼけつと突っ立っていた。私に気が付くと、あからさまに嫌な顔をした。「なによ」

テニス部の場所を聞こうと思つてえ。と言おうとしたとき、「ワコー」と大きな声がした。背が高く、目がぎょろつとした三年生である。お姉ちゃんのことを呼んだらしい。

「だあれ？ この子たち」

お姉ちゃんが答える前に「妹です」と明るく答える私。米村さんも負けじと「の、友達です」とはきはきと答えた。

「入る部活決まったの？」

私と米村さんは顔を見合わせる。なんだか気分がよかつた。初めての三年生との会話だ。「卓球部に入りなよー。たのしいよー。ねえ、せつかくここまで来たんだから入りなよー」

ワコーからもお願いしてよ。そう言われた姉は、Ⅲ 感じて「どうすんの」と聞いてきた。その間もすかさず、「入って入って、たのしいよ」と天下の三年生からのお誘いの嵐。

「卓球部に入部します」

(5) いつものまにか口が勝手に動いてた。「瞬ぼかんとしていた米村さんも、次の瞬間には「入部します」となぜか口走る。

「イエーイ、ありがとー」

誘ってくれた三年生が喜んでいる横で、お姉ちゃんは、ばかかという目で私を見ていた。

家に帰ってから、後悔の大波が押し寄せてきた。なぜ、あれほどあこがれていたテニス部に入らなかつたのか。

よりによって卓球部。なぜになぜになぜに？ 自分でもさっぱりわからない。

「ねえ、私、卓球部なの？」

お姉ちゃんに聞いたところで、(6) 「知らないよ！」と白い目で見られるだけだつた。ばかか、自分。プラス米村さん。今さら断ることなどできるはずもなく、そのままなしくずし的に、私と米村さんは卓球部員となつたのであつた。

(椰月美智子『体育座りで、空を見上げて』)

問1 —— 線(1)「もはや家に帰りがたかつた」とありますが、この時の「私」の気持ちとしてもっとも適切な

ものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 教室の中のはりつめた空気にたえられずに、にげだしたくなっている。
- イ 米村さんしか話せずにいる自分が嫌になり、情けないと思つている。
- ウ クラスのふんいきになじめず、自分の居場所がないように思つている。
- エ おごそかな入学式が無事終わったので、解放された気分になつている。

問2 —— 線(2)「はあーっ、と入学早々一日目からおおきなため息をついた」とありますが、この時の「私」の気持ちとしてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 中学校での生活が、自分の予想とは全然違うのでおどろいたなあ。
- イ となりのクラスの先生が、私の担任になったらよかつたのになあ。
- ウ 学校から自宅にやつと帰ってくるのができて、ほつとしたなあ。
- エ 新しい友達ができず、これからの中学校生活が思いやられるなあ。

問3 Iにあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 腹の立つ イ 骨が折れる ウ 手につかない エ 足をうばわれる

問4 線(3)「そんな自分自身に納得できない」とありますが、どのような自分に「納得できない」のですか。もっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 本心では新しい友達をすぐにでも作りたいと思っているのだが、米村さんとの友情がこわれてしまうのではないだろうかと思い実行に移せないでいる自分。
イ 新しい友達を作ろうとしていないくせに、周囲の子に友達がいなしと思われたくないので、その日限りの友達関係を作ったその場をやりすごしている自分。
ウ 同じ小学校出身の友人たちと離ればなれになってしまったさびしさに加えて、一人でぼんやりすごしている毎日に対してももの足りなさを感じている自分。
エ 米村さん以外の子に声をかけられて仲間に入れたことをうれしいと思う一方で、一人でいることにはなれないのでむしろめいわくだとも思っている自分。

問5 線(4)「余計なこと」とありますが、なぜ「私」は「余計なこと」を考えてしまったのですか。その理由としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「私」といつも一緒にいたいと思っている米村さんに対して、「私」にはこの学校の中に「お姉ちゃん」というたのもしい存在がいることをじまんしたくなったから。
イ 「私」ばかりをたよりにしてくる米村さんと部活動の時ぐらいは別々でいたいと思い、困った時に自分の味方になってくれる「お姉ちゃん」に相談したくなったから。
ウ テニス部がテニスコートで活動していることぐらいい考えればすぐわかりそうなものだが、いつもたよりにしている「お姉ちゃん」に教えてもらい安心しなかったから。
エ 入学してまもない自分たちだけで知らない人ばかりのテニス部に行くことは不安なので、学校をよく知っている三年生の「お姉ちゃん」についてきてほしかったから。

問6 II・IIIにあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア ふわっとした イ もやっとした ウ むっとした エ ばあっとした
オ ぼおっとした カ じめっとした キ はっとした ク からっとした

問7 ———線(5)「いつのまにか口が勝手に動いてた」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 三年生である「お姉ちゃん」に入部の気持ちを聞かれて自分の意志が固まったから。
- イ 三年生からの入部の誘いをそう簡単に断るわけにはいかないだろうとさとしたから。
- ウ 三年生と一緒に自分だけ卓球部に入っても楽しい学校生活を送れると思ったから。
- エ 三年生とはじめて話をした上に熱心に誘われて気持ちがまい上がってしまったから。

問8 ———線(6)「知らないよ」と白い目で見られるだけだった」とありますが、この時の「お姉ちゃん」

の気持ちの説明としても最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 卓球部に入部すると言った言葉を改めて人に聞いて確かめようとする妹にずるさを感じている。
- イ 自分で卓球部に入部すると決めたはずなのに後になって助けを求めてきた妹を軽べつしている。
- ウ 卓球部に入る気がなかったのに入部してしまった責任をなすりつけた妹にいかりを覚えている。
- エ 入部して何日もたたないのに卓球部をやくもやめたいと平気で言ってくる妹に閉口している。

一

問 1

①

②

③

問 2

問 3

a

b

問 4

第 段落 第 段落

問 5

）

問 6

問 7

問 8

問 9

II

III

問 10

問 11

二

問 1

問 2

問 3

問 4

問 5

問 6

II

III

問 7

問 8

受験番号
氏名

総得点

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

一の得点

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

二の得点
